

ほろにが

令和5年1月13日
全国卸売酒販組合中央会

「年頭所感」

国税庁酒税課長
中田和幸

<はじめに>

全国卸売酒販組合中央会及び組合員の皆様、謹んで新年の挨拶を申し上げます。また、日頃から酒類行政はもとより、税務行政全般について、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も大変な1年だったかと推察致します。

ただでさえコロナ禍の影響で事業に様々な支障が生じている中、2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻、それに伴う諸物価の高騰。これに対応するために行われた諸外国の利上げ。内外の金利差を契機とした夏以降の円安の進行と輸入物価の高騰。年末にインバウンドが再開される一方で中国の感染再拡大。そして、国内での感染再拡大のおそれを抱える中で年始を迎えました。

<適正な取引価格>

卸売業界の皆様におかれましては、諸物価の高騰の影響を受け、販売先との値上げ交渉に大変苦慮されたものと推察致します。また、今年も春に向けて、さらなる値上交渉が行われるものと承知しております。

今回の事態は、①酒類だけではなく、ほぼ全ての分野で物価高騰の影響が出ていること、②人口減少の中で、従業員の賃金も適正に確保していかなければ国全体の需要が拡大していかないことから、酒類業の健全な発達のためにも、粘り強い価格交渉を期待しております。

国税庁としても、昨年3月に改正した「酒類の公正な取引に関する基準」に基づき、深度ある取引状況等実態調査を行い、適切かつ厳正に対処していく所存です。

<事業者支援①>

人口減少等により国内需要が漸減する中、大手製造会社の大量生産と広告宣伝、大手小売業者のバイイングパワー、製造と小売の直接取引やECの攻勢もあり、卸売業の真価が問われていると考えています。

しかし、同じように苦しむ築地・豊洲の卸売業の方から、卸売業の価値は「目利き」にあると言う話をうかがいました。日々、大量に多様な商品や人を見ているからこそ、何が本当に価値のあるものなのかが分かり、その「目利き」の力に信用と価値(=価格)がつくとのことでした。そして単に右から左に流す機能の部分は合理化していくしかないとのことでした。

また、飲食店や小売酒販店の中にも、価格を下げることなく、特徴を持った商品を提供することで評価を得ているところがあります。酒類業の健全な発達のため、卸売業からも、こうした動きを盛り立ててもらえると幸いです。

国税庁ではこれまで、卸売業における新たな物流管理システムの導入や共同物流サービスに向けたインフラ構築等に補助金を交付してきました。今年も引き続き補助金も活用し、卸売業の皆様の価値の創造にかかわる取組や合理化に向けた取組を支援していく所存です。

<事業者支援② 輸出>

国内需要は厳しい中、輸出は対前年比2割増と好調です。

輸出といっても、見方を変えれば、単に消費者が国内から海外に変わったただけであり、卸売業の役割が一層期待されているとも言えます。

既に、海外の展示会や商談会に積極的に出て行き、現地の卸売業者や小売業者と提携し、活躍されている方も承知しております。

国税庁では、日本産酒類輸出促進コンソーシアムを設け、さまざまな情報を提供しております。また、海外の大規模展示会のブースを買い取り、あるいは自ら個別商談会を企画するなどして、卸売事業者の皆様の販路拡大を支援しています。

また、政府内にも内閣官房の海外ビジネス投資支援室が新たに発足し、日本大使館やジェトロ等の政府関係機関が一体となって、皆様の海外ビジネスを支援するための枠組みを設けており、さらに県単位でも支援措置があると承知しております。

卸売業の皆様におかれましては、自らあるいは官公庁の事業に参画し、海外への販路拡大に取り組み、自社および酒類業全体を盛り立てただけると幸いです。

<結び>

新年が全国卸売酒販組合中央会及び組合員の皆様方にとって、御多幸と御繁栄の年となりますよう、心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。